

週刊 座、グレート・リーダーズ通信

『インド私録-思い切り取り組んだこの 50 年-』 No.18

今週のキーワード！ ナクサライト

武藤氏の憂鬱、巨象の憂鬱

武藤氏が『インド私録』の中で、1972 年 4 月からの 2 年半のカルカッタ勤務にあまりいい思い出がないこと、その理由の 1 つとして当時のカルカッタが政治的にも経済的にも混乱期にあったことを挙げています。それは「私の外交活動への意欲を殺ぐ結果になった」と語るほど。それほどまでに暗い印象のある当時のカルカッタの政治的混乱の原因の 1 つは本文にある「ナクサライト(極左過激分子)」の存在でした。

「ナクサライト」は、1964 年にインド共産党 (Communist Party of India=CPI) が右派の共産党 (CPI) と共産党左派 (CPI-M) に分裂、その 3 年後に、毛沢東の革命思想に影響された CPI-M の中の極左分子が、西ベンガル州ナクサルバリで農民を扇動し、地主を襲撃するという血生臭い事件が発生。武力による共産革命を目指すインドの過激勢力を、以降ナクサライト(ナクサル分子)と呼ばれるようになりました。実はその中核をなす人々はカルカッタのプレジデンスー・カレッジで共産主義に触れたインテリ層の若者だったことは放送でもご説明しています。

ナクサライトは西ベンガル州を中心に活動していましたが、1960 年

代末から 70 年代の半ばにかけて、インド政府が武力で徹底鎮圧に努めたことや、暴力的な運動そのものが民衆の支持を得られなかったこともあり、同州での動きは自然に下火になっていきました。

しかし、ビハール、ジャルカンド、マディヤ・プラデシュ、チャッティスガル、オリッサ、アンドラ・プラデシュ州などのインドの東海岸沿いの各州では、その後も勢力を増やしており、「赤の回廊」と呼ばれています。この辺については、先週ご紹介した武藤氏の新著『巨象インドの憂鬱-赤の回廊と宗教テロル』(出帆新社刊)にて是非お読み下さい。

大規模投資と雇用を逃した

タタ「ナノ」の移転

西ベンガル州といえば、いまや世界中で有名になった日本円で 20 万円の乗用車、タタ・モーターズの「ナノ」の主力工場となりそこなねたことで有名です。

「ナノ」の主力工場はグジャラート州にあります。もとは西ベンガル州シングルで 2008 年 10 月の生産開始を目標に建設が進められていました。ところが、工場用に州政府が農地を接収した際、強制的収容があったと主張する地元農民の反対運動が起き、それを州議会野党のトリナムール会議派が主導して、

工場建設を妨害するなどの、抗議活動も劇化。2008 年当時ですでに運動は 2 年以上にわたっており、州政府は共産党政権であるだけに住民運動を制圧できずにいました。

こうした状況から、タタ・モーターズは工場完成目前にして同年 10 月 3 日に同州からの正式に撤退を発表。同社のラタン・タタ会長は 8 月には「撤退」もありうることを示唆していましたが、武藤氏はそれより先、6 月 24 日にタタ会長をムンバイに訪問した際、そのナマの声を聞いていました。

タタ会長は武藤氏の「西ベンガル州に対してどう思っているか」との質問に、「(極めて清潔な州政府であることに好感を持って進出を決めたが)率直に言って失望した。自分としてはこれ以上この州で投資活動を続ける考えはない」と明言したのでした。

タタ・モーターズは結局、主力のグジャラート州の新工場(年産能力 35 万台)を建設しつつ、既存工場(同 5 万台)で「ナノ」の生産を開始し、2009 年 7 月に第 1 号車を納車しました。以来、今年 9 月までに 6 万 7,752 台を納車しています。2010 年末までに予約のあった 10 万台を生産する計画です。

第 20 回! 放送は
今日 10 月 12 日です。

